

令和6年5月9日

三鷹市議会議長 様

議員行政視察に係る結果報告書

会派名 三鷹市議会公明党代表者名 大倉 あき子

1 視察年月日	令和6年5月7日(火) ~ 令和6年5月8日(水) (1泊2日)
2 視察者氏名	<u>大倉あき子</u> <u>赤松 大一</u> <u>粕谷 稔</u> <u>佐々木かずよ</u> 計 4 人
3 視察先及び 視察項目	宮崎 都・道・府・ <u>県</u> 都城 <u>市</u> ・町・村 中心市街地中核施設を中心とした再開発事業
4 視察結果等	◎都城市 中心市街地中核施設を中心とした再開発事業 Mallmall(まるまる)とは都城市が整備を進めた中心市街地中核施設の愛称であり、図書館や保健センターなど8つの施設で構成されている。 Mallmall が整備されたこの一帯は、古くは都城の商業の中心地で、最盛期には、エリアを南北に貫く国道沿いに3つの大型商業施設が立地していた。しかし1990年代以降、業態転換や経営破たんにより商業施設がなくなる中で、地元資本のデパート「都城大丸」だけが残ったがそこも経営破たんし、それらの土地・建物は2013年3月、都城商工会議所会員企業で立ち上げた受け皿会社を取得するに至った。 Mallmall は、市がこのデパートの跡地等を受け皿会社から譲り受け、整備した。総事業費は約65億円だが、社会資本整備総合交付金や償還金の70%を国が負担する合併特例債を活用し、市の持ち出しは約3分の1で整備することができたとのこと。 跡地には、子育て支援施設や保健センターなど4施設が入る建物を新たに建設した。既存建物についてはリノベーション工事を施し、図書館を核とする施設に転用した。この施設は、既存建物の利用に



より約 31 億円の整備コスト削減を実現できたとのことである。また、新築建物と既存建物の間には屋根付きの「まちなか広場」約 600 m²を整備した。駐車場棟も改修し、収容台数 218 台の Mallmall の駐車場として活用している。

なかでも、都城市の中心部に 2018 年 4 月に移転してきた市立図書館の反響は大きく、2018 年度の利用者は 1 年間で 110 万人を超えた。図書館は集客力向上を図るため、図書館の空間的高質化業務（家具・備品等のデザイン・レイアウト・調達や内装等への助言）、指定管理業務、カフェの誘導・運営業務の 3 つの委託業務をパッケージにして一体的に担う事業者を公募型プロポーザルで選定し、管理者を整備段階から関与させたとのこと。これにより高質なしつらえと管理運営の円滑化を図り、利用者満足度を向上させ、市立図書館でありながら、隣の宮崎市や県境を越えた鹿児島県霧島市からも多くの人が訪れる魅力ある図書館となった。

なお、保健センターを除く 7 施設は全て、民間事業者や社会福祉法人の指定管理で運営・管理が行われている。2018 年 4 月 28 日にオープンした Mallmall は、開館から 1 年と 1 日の 2019 年 4 月 28 日には延べ来場者数 200 万人を突破したそうだ。

Mallmall では、図書館等の魅力ある施設と併せて、既存建物と新築建物の間に設けた屋根付きのイベント広場「まちなか広場」でのイベントが施設の魅力の 1 つとなっている。市では運営にあたる指定管理者に対し年間 200 回の主催イベント実施を求めているとのこと。特に毎月第 3 日曜日に開催する「mall mall marche（マルマルマルシェ）」は、まちなか広場に 30 店舗前後が出店し、毎回 3,000 人規模が集まっているとのこと。ほぼ毎日イベントを開催することでハード面だけではなくソフト面でも多くの人が中心市街地に訪れる魅力づくりに取り組んでいる。

市内外からも訪れたくなる魅力ある街づくりの取組みを視察できたことは、今後の本市における三鷹駅前の再開発の整備を考える上で大変参考になった。

※参考 5 月 8 日（水） 天神エリア再開発計画（民間）（福岡県福岡市）